

「割れ窓理論」と安全衛生活動

大垣労働基準監督署

割れ窓理論

割れ窓理論(英: Broken Windows Theory)とは、軽微な犯罪も徹底的に取り締まることで、凶悪犯罪を含めた犯罪を抑止できるとする環境犯罪学上の理論。アメリカの犯罪学者ジョージ・ケリングが考案した。「建物の窓が壊れているのを放置すると、誰も注意を払っていないという象徴になり、やがて他の窓もまもなく全て壊される」との考え方からこの名がある。

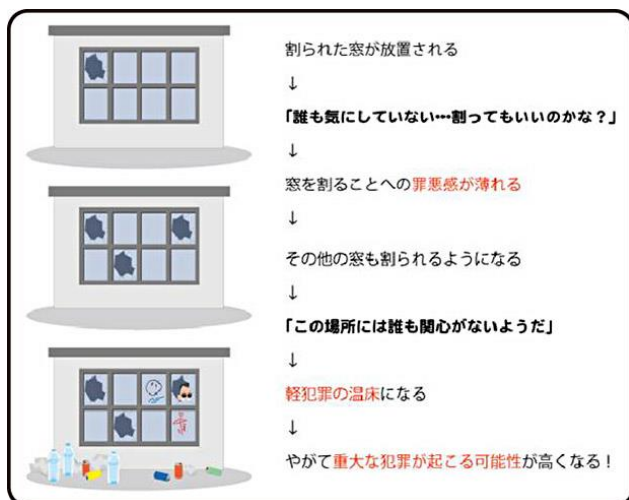
《割れ窓理論とは次のような説である。》

▶ 治安が悪化するまでの経過

- ① 建物の窓が壊れているのを放置すると、それが「誰も当該地域に対し関心を払っていない」というサインとなり、犯罪を起こしやすい環境を作り出す。
- ② ゴミのポイ捨てなどの軽犯罪が起きようになる。
- ③ 住民のモラルが低下して、地域の振興、安全確保に協力しなくなる。それがさらに環境を悪化させる。
- ④ 凶悪犯罪を含めた犯罪が多発するようになる。

▶ 治安を回復させる方策

- ① 一見無害であったり、軽微な秩序違反行為でも取り締まる(ごみはきちんと分類して捨てるなど)。
 - ② 警察職員による徒歩パトロールや交通違反の取り締まりを強化する。
 - ③ 地域社会は警察職員に協力し、秩序の維持に努力する。
- などを行えばよい。



職場における環境悪化の経過と対策

▶ 「割れ窓理論」を職場の安全衛生に例えると次のようになる。

- ① 不安全行動や不安全状態を放置しておくと、誰も安全管理に対し関心を払っていないというサインとなり、災害を起こしやすい職場環境を作り出す。
 - ② 5Sが遵守されなくなり、安全水準の低下が始まる。
 - ③ 労働者のモラルが低下し、現場の安全管理に協力しなくなる。それがさらに環境を悪化させる。
 - ④ 重篤災害を含めた災害が多発するようになる。
- ▶ したがって、職場の安全管理を回復させる方法としては、

- ① 5Sの徹底、不安全行動・不安全状態の改善を徹底する。
 - ② 現場パトロールや安全衛生教育を強化する。
 - ③ 職場単位でヒヤリハットなどの情報を収集し、リスクの把握と示現化防止対策についてPDCAを繰り返すことで安全水準の維持向上に努力する。
- などを行えばよい。

安全活動の進め方

職場の安全衛生活動を進めるには、次のステップを確実に進めることが肝要です。

- I 決めて、守る。
- II 徹底する。
- III 習慣化する。
- IV 企業風土になる。
- V 改善が進む。

些細に見えることであっても、“割れ窓”を放置しておくと、そこから“規律を守るという意識が低下し、一人ぐらい守らなくても大丈夫”となり、その先に、“わたしは経験者でベテランである。したがって、わたしは事故に遭うはずがない。”という意識が生じ、情緒的・衝動的・非合理的な行動が現われ、また、周囲の人の行動に感染し、“みんなも守っていない。”になってしまう。

職場全体に“毒”が蔓延すると、安全衛生活動は停滞し、誰も安全衛生活動に協力しなくなり、さらに職場の環境を悪化させます。

そして、最後には、重篤な災害を繰り返すようになってしまいます。

※ “割れ窓”を放置しないことが大事です。